

平成 31 年度 大阪市立水都国際高等学校

学校関係者評価



大阪市立水都国際中学校・高等学校

Osaka City Suito Kokusai

Junior & Senior High School

1 総括についての評価

- ・開校初年度で試行錯誤を繰り返しながらの学校運営の中、本校の教育理念である 3E (Encourage, Engage, Empower) のもと、生徒が主体的に考え行動する教育活動を進めたことを認める。
- ・生徒の英語力の差については、支援体制の構築に尽力し、EAL を中心とした、生徒一人ひとりに対する細やかな指導により改善され、英語外部試験結果に成果が見られたことを評価する。
- ・すべての授業において、大部分の時間を課題探究型の取組に充て、アクティブ・ラーニングと従来の知識伝達型手法（講義型の授業）をハイブリッドした授業展開に取り組んでいることを評価する。
- ・課外活動において、他者との議論と協働を繰り返し、GAPS 活動での様々なプロジェクト、スポーツフェスティバル、文化祭、アカデミックフェア等に生徒が主体的に取り組み、成功させてきたことを評価する。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

- |   |
|---|
| <p><b>年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒への対応及び家庭との連携による指導を大切にし、いじめや人権課題に関わる取組の一環として「いじめを考える日」「ピンクシャツデー（いじめをなくす啓発運動）」を実施し、生徒一人ひとりの人権に関する意識向上に努めたことを評価する。</li> <li>・地域との連携による防災訓練の実施を評価する。</li> <li>・生徒会の設置をはじめとする学校文化の創造への参画において、生徒の主体性が発揮されていることを認める。</li> <li>・積極的に外部講師やゲストスピーカーを招き、国際理解教育やキャリア教育を推進し、生徒の意識向上に努めたことを認める。</li> <li>・学校運営また学校文化の形成における生徒の主体的な参画が見られ、生徒は自治の意識をもって決定のプロセスを体験できる仕組みがあることを認める。</li> <li>・社会におけるルールやマナーを認識し、日常的に各々の自己の行動に対する振り返りを行う素地が培われていると認める。</li> <li>・教職員が生徒との信頼関係の構築に努め、生徒が自由と責任について考え、理解し、行動できるよう支援し、教育活動を進めていることを認める。</li> <li>・生徒会組織について、生徒が主体となり教職員と協働して創り上げる、また、生徒自身が社会におけるルールについて理解を深め、自分たちの学校のルールについて考える等、生徒の積極的な学校運営への関わりを認める。</li> </ul> |
| <p><b>年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての項目で指標を上回ったことを認める。</li> <li>・グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の認定を受けたことを評価する。</li> <li>・非認知スキルや問題解決能力をはかる試験を実施するなどの学校目標に沿った教育活動</li> </ul>   |

の成果を測る取組を認める。

- ・英語・数学・理科・国際理解教育の教科において英語を用いて授業を行うにあたって、EALなどのサポートも加え、生徒の一人ひとりの英語力向上を実現する取組を認める。
- ・「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を推進し、アクティブ・ラーニングの割合を單元ごとに50%以上とすることをめざすため、中高合同の教職員研修などの授業力向上の取組を行ったことを評価する。
- ・授業内で英語を活用したプレゼンテーションプログラムを実施するなど生徒の外国語運用能力・表現力向上に努めたことを認める。
- ・健康に関する指導について、感染症等、生活習慣病、環境問題、心の健康、喫煙、飲酒、薬物についての正しい知識を身につけさせる取組を認める。
- ・ICTを活用し、学校運営を効率化し、情報共有の円滑化を図った。具体的には、授業資料の回収・共有、定期試験や授業内の小テスト等のPC上での実施、保護者への連絡システムの構築等、ICTを十分に活用して教育活動の充実を図っていると認める。
- ・管理運営法人である大阪YMCAのリソースを生かし、海外大学からのインターン生の長期受け入れ、海外からの訪問者などグローバルマインドを育む多様な体験機会を生徒に提供し、生徒の意識向上に努めたことを認める。
- ・多様なゲストスピーカーによるキャリアガイダンスセミナーを行い、生徒の進路への意識向上に努めていることを認める。
- ・海外大学進学、国内大学進学など生徒の希望に適切した進路指導を行なっていることを認める。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

- ・今後の課題として挙げられた部分についての改善に向けた取組を次年度に期待する。
- ・創設初年度であり、今後学校の文化を創造するにあたって、今後も生徒の主体性の育みを大切にし、教育活動を進めていくことを期待する。
- ・ICTを活用した教育活動を推進しているが、個々の生徒の習熟度の差に配慮し、サポートを十分に行っていくことが肝要である。
- ・英語で行う授業においてサポートが必要な生徒に対する支援体制をさらに充実させてほしい。
- ・多様な背景を持った生徒、また様々な進路希望を持った生徒に対し、丁寧な教育活動を進めていくことを期待する。
- ・学校の設立趣旨、教育理念に基づいてグローバル社会で活躍する青少年の育成をより一層期待する。